

日本と欧州における 踊狂の比較舞踊論的考察

片岡 康子

一柳 智子

この研究は、日本と欧州における踊狂現象を、いろいろな観点より比較し考察することを目的とした。具体的には、日本においては念仏踊とおかげまいりを、欧州においてはダンシング・マニアと十字軍をとりあげてみた。

I. 念仏踊

念仏踊とは、踊念仏ともいわれ、念仏や和讃を唱えながら、念仏僧のうしろに従って、鉦・太鼓などを打ち鳴らして踊ることから始まった。そして、その後、空也⁽¹⁾や一遍⁽²⁾らによって全国にひろめられた。踊る様は、狂操的恍惚乱舞であって、踊り跳ねたものであった⁽³⁾。そして、この念仏踊は、室町時代には娯楽化し、風流化していった。また、念仏に代わって小歌が入るようになり、近世の歌舞伎舞踊の発生基盤ともなっていた⁽⁴⁾。ヤヤコ踊・風流踊・盆踊などは、この念仏踊から、念仏的要素がなくなったものである。

また、念仏踊の背景としては、室町・戦国の社会不安があげられ、その意義は、当代社会へのレジスタンスと、世のうっぶん晴しがあげられる。

このように、念仏踊は、以下にあげる3つの現象のように事件的なものではなく、社会・人々の意識の変化とともに展開していったものであるとみることができると思う。

また、念仏踊の普及度は、仏教の普及度と相互に深く関係しあっている。

II. おかげまいり

周知のごとく、おかげまいりとは、江戸時代全般に約60年周期で起こった踊狂現象であり、伊勢神宮へ向かう巡礼運動であった。この時代は、神道と仏教が融合した時代であり、町では歌舞伎踊りが流行し、農村では盆踊などの楽しみを期に応じて行っていた。

具体的なおかげまいりの現象としては、主なもので、慶安3年(1650)、宝永2年(1705)、享保3年(1718)、同8年(1723)、明和8年(1771)、文政13年(1830)の6回と、慶応3年(1867)のええじゃないかがあげられる。これらのうち、宝永・明和・文政

の3つのものを近世の三大巡礼運動とし、その特徴としては、約60年周期で行なわれたこと、運動がおよそ全国的な規模になったことなどがあげられる。また、慶応のええじゃないかの原因については、諸説乱立している。主なものに、政治的作為説・病的社会現象説・変態的末期的現象説などがあげられる。

また、上林氏は慶安のおかげまいりの発生原因を、「慶安の触書」との関係とみている⁽⁷⁾が、高尾氏は、この頃の民衆の生産力、生活の向上による民衆の成長もその原因の1つではないかとみている⁽⁸⁾。享保期のものについては、この時期は、八代将軍吉宗による「享保の改革」がなされた時期でもあり、上林氏は、この改革の禁欲的傾向が享保3年のおかげまいりの発生原因ではないかとしている⁽⁹⁾。

III. ダンシング・マニア

今回は、ヨーロッパにおける踊狂現象を総称して、ダンシング・マニアと呼ぶことにした。ダンス・マカーブルという用語は、フランスでのものにおいて使用した。また、ドイツではセント・ジョン・ダンスとセント・ヴィトス・ダンス、イタリアでは、タランティズムをとりあげてみた。

しかし、ダンス・マカーブルが、実際に踊り狂われたものなのか、それとも単に「死」をテーマにしただけの踊りなのか定かでない。セント・ジョン・ダンスとセント・ヴィトス・ダンスはどちらもドイツで発生して、ベルギーなどへも波及した⁽¹⁰⁾。これらと黒死病との関連は非常に深いもののように思われるが、その原因は黒死病であるとは言いきれない。しかし、これらの波及に拍車をかけたことは確かである。イタリアのタランティズムは、ドイツのものと同じ頃の発生で、18世紀頃まで続いた。

IV. 十字軍

以上の3つの踊狂現象に、十字軍をつけ加えた理由は、巡礼運動という点に視点をあてると、おかげまいりと対比できるからである。

十字軍とは、11世紀末に欧州に起こったもので、人々の聖遺物に対する狂信的な執着がその原因の主なものである⁽¹¹⁾。具体的には正式なもので7回、非公式なものを含めて十数回行われた。その他、民衆十字軍や、子供十字軍などもある。しかし、これら十字軍の中で、本来の目的であるイェルサレム奪回を成功させたのは、第1回目のものであった⁽¹²⁾。

その当時のヨーロッパ人は、非常に海外事情に対して無知な状態であった。また、参加者は、民衆十字軍と子供十字軍は例外として、他の公式のものは主に騎士であった。

以上の4つの踊狂現象を、原始民族的・宗教心理的・群集心理的などの観点より比較考察をしてみる。

ザックスによれば、「人間は踊ることの忘我の内
 にあって、現世と来世、悪魔と精霊と神の王国との
 間隙に橋をかける⁹³」⁹³といて、舞踊をわれわれの未
 開の祖先から受けついでいるものであるとしている。
 また、ランガーは、我々の未開の祖先は、舞踊を、
 未開の生活の最も重大な知的活動としていて、人間
 精神が、その世界に参加することであるとしている。
 そして、両者とも舞踊の法悦性を大きく認めている。
 つまり、人間の中には、原始より絶えることなく脈
 々と流れ続けている舞踊の法悦性は、人間が存在す
 る限りその中に潜んでいるとみてよいのではないかと
 考えられる。しかし、十字軍については、このこと
 を考察し得るだけの先行研究も史料も見当たらず、
 今段階では、踊狂の範ちゅうに入るかどうかの判断
 はできない。

次に、これら4つの踊狂現象と宗教との関わりを
 みていく。これらの背景には、仏教・神道・キリス
 ト教があり、具体的には、おかげまいは伊勢神宮
 への巡礼運動であり、十字軍はエルサレムへの巡
 礼運動である。両者とも、規模こそ違え、各宗教の
 総本山への巡礼運動という点に共通点を見ることが
 できる。十字軍を、これらの踊狂現象の中に入れて
 論じた当初の理由はここにある。また、十字軍は宗
 教的にみると念仏踊とも比較できる。それは、外来
 宗教としてのキリスト教及び仏教が、その地に定着
 する媒介としてこれら2つの踊狂現象が存在したと
 みるからである。

次に、人々が群集化し、それが踊狂現象へとつな
 がっていった心理をさぐってみる。

群集を1つの集合体たらしめているものは物理的
 接触を土台とした心的相互接触であるところの直接
 的接触である。

また、タルドとブルーマは、群集の形態を4つに
 分けている。タルドによれば「表現の群集」に入り、
 ブルーマによれば、「表現的群集」に含まれる。その
 理由は、両者とも、群集の異常的な心理状態として
 の興奮が身体運動によって表現されるという点をそ
 の群集形態の特徴としてあげていることである。

以上のように、今回はこれら4つの踊狂現象を3
 つの観点より考察してみた。

つまり、人間には、原始より踊ることによって法
 悦状態に達しエクスタシーを得るといふ欲求があり、
 それは、文化や宗教の相違を越えて人間が根源的に
 所有している欲求である。生理学的に言えば、大脳
 皮質レベルでの人間の共通性といえるものであろう。
 狩猟文明における跳躍的な舞踊も、農耕文明におけ
 る大地的な舞踊も、人間自身の喜怒哀楽の表われで
 ある点、また、その根底には法悦性が見出だされる
 点にも共通性がある。これら踊狂現象は、こうした
 人間の内面的同一性すなわち法悦性が、宗教的・文
 化的差異をもちながらも、群集心理によって誘発さ
 れた現象であるとみるからである。

注1. 延喜3(903)年に生まれる。彼の生きた時代には、東国で
 は将門の乱、西国では藤原純友の乱(承平の乱)が起き、
 晩年には、安和の変(969)も起きているほど、社会的に
 は不安定だった。

注2. 延応元(1239)年伊予に生まれ、正応2(1289)年世を去っ
 た。朝廷と幕府が対立し、国内を混乱におとし入れた承
 久の乱がおこったのは、一遍出生18年前のことである。

注3-5. 郡司正勝「日本舞踊辞典」「念仏踊」の項 東京堂出版
 昭和52年6月25日

注6. 伊勢神宮は、もともと伊勢地方の地方神をまつたもの
 でしたが、5世紀以降になって、天皇勢力の伊勢地方へ
 の進出にともなって天皇家とむすびつき、その祖先神と
 合体された。国家神となったのは奈良中期頃からのこと
 である。

注7. 上林澄雄「日本反文化の伝統」講談社学術文庫 P.198

注8. 高尾一彦「近世の日本」講談社現代新書, S.51.6.20
 P.103

注9. 上林澄雄 前掲書, P.198

注10. J. F. C. HECKER "The Dancing Mania of the Middle
 Ages" P.1-6

注11. 鯖田豊之「ヨーロッパ中世」河出書房新社, S.44.1.15
 P.197

注12. 鯖田豊之 前掲書, P.291

注13. クルト・ザックス「世界舞踊史」小倉重夫訳, 音楽の友
 社, S.47.6.1 P.10

注14. 佐藤智雄・柳井道夫「社会心理学」学文社, S.47.4.10
 タルドは、群集の形態を次の4つに分けている。

- 1) 期待の群集 (foules expectantes)
- 2) 注意の群集 (foules attentives)
- 3) 表現の群集 (foules manifestantes)
- 4) 行為の群集 (foules agissantes)

ブルーマーは、群集の形態を次の4つに分けている。

- 1) 偶然的群集 (casual crowd)
- 2) 会合的群集 (conventionalized crowd)
- 3) 行動的・攻撃的群集 (acting, aggressive crowd)
- 4) 表現的群集 (expressive crowd)